

2010 年 9 月に東京校実践コースを修了後、2010 年秋期コース留学生として渡米された櫻井桂良（サクライ カツラ）さん。帰国後はすぐにショート・ショートフィルムフェスティバル（SSFF）のトライアルに合格、プロの翻訳者としてスタートされています。今回は、ロサンゼルスでの留学生生活をどのように過ごされていたのか、なるべく具体的にお話していただきました。

◆◆JVTA ロサンゼルスでの留学生活◆◆ 櫻井桂良

【平日の過ごし方】

学習中心！まさに翻訳にあけて翻訳に暮れる日々

8:20	起床。
9:10	朝食。
9:30	学校へ出発。20 分歩いて向かいます。
10:00~13:00	授業。
13:30~14:30	昼食。
15:00	帰宅。 ホストマザーと少し話した後、 部屋で課題に取り組む。
17:30	夕食。ホストマザーと、ハウスメートと一緒に。
19:00	3 人でコーヒーを飲みながら、テレビを観たり、 今日起こったことを話しながらリラックス。 ホストマザーの愛犬も一緒に。
20:00	午後に引き続き、課題に取り組む。 合間あいまに、facebook や email で家族や友人と 連絡を取り合ったり、シャワーを浴びたりします。
24:30	就寝。



櫻井 桂良さん

★授業について★

番組制作の現場ならではのエピソードが満載！

講師陣は、LA の映画産業で、翻訳を含めたローカライゼーションのスペシャリストとしてご活躍されている方々です。ある日の講義では、数々の日本アニメ吹き替え制作を手がけるジェシカ講師から日米の放送コードの違いによる、翻訳作業以外で制作側が苦労する点についての話が興味深かったですね。例えば、日本のアニメにタバコを吸うキャラクターが出てきた時は CG でタバコの絵をすべて削除した、爆弾を投げまくる爆弾型のキャラクターは、オレンジを投げまくるオレンジ型のキャラクターに変更したなど、面白い裏話がたくさんありました。

また、ほとんどのクラスメートがアメリカ生活の長い方々なので、日本ではまだメジャーではないドラマやリアリティーショーなどについて、日常的に話題に上るのも新鮮です。

★ホストファミリーとの会話について★



ステイ先リビング



ホストファミリー、ルームメイトと

同じような動作について何か言っていたことを思い出したのです。さっそく、彼女に確認したところ、「(panting)」という表現を教えてくださいました。こうして辞書や検索からではなく、ネイティブの方から生きた英語を教えてもらえるのも留学の醍醐味ですよ。

またある時は、宗教による感覚の違いのようなものを実感しました。課題は『It's a Miracle』という番組で、両親の離婚後に母方に育てられた男性の物語。男性の娘が通う高校の用務員が娘とよく似ていたことから、実はその用務員が生き別れた父と分かり、再会するというエピソード。敬虔なカトリックのクリスチャンであるホストマザーにこの話をすると、「まさに神様のお導きだ」としきりに感動するんですね。彼女の感情があまりにも高ぶりすぎて、私の質問した内容は結局どこかに吹き飛んでしまいました（笑）。これが日本で放映されたとしたら、「あまりの偶然にビックリ！」という驚きが一番先に取りざたされるのではないのでしょうか。キリスト教の浸透したアメリカでは「奇跡＝神様によるもの」とすぐに結びつけられることも新鮮で、日米の捉え方の違いを目の当たりにした気がしました。

★通学について★

ホームステイ先から JVTA まで、徒歩 20 分です。こちらは JVTA に紹介されたホームステイエージェントを通して手配しました。私は留学期間中に車を持つことはない、と決めていましたので、学校から徒歩圏内のステイ先を第一条件として希望しました。ロサンゼルスは車社会であるため、歩いている人はそう多くはありませんが、カリフォルニアの空の下歩くのは、本当に気持ちいいものです。暖かいロスといえども、季節的には冬であるため、朝はまだ肌寒い日が多いのですが、9:30 に家を出て、かわいい住宅を見ながら学校までの大通り沿い

メキシカン・ソープオペラを“英語解説付きで”鑑賞

私のホストファミリーはアメリカ生まれのメキシカンで、夕食後はいつもメキシカンのソープオペラを観ています。いわゆる日本の昼メロのようなドラマティックな内容なのですが、原語はスペイン語。そのため、私と韓国人のルームメイトには、ホストマザーが丁寧に英語で内容を説明してくれます。ルームメイトの彼女によると、「韓流ドラマと似ているから、言葉が分からなくても面白い内容は理解できる」のだとか。

ホストマザーは日英翻訳の課題についてもいろいろ教えてくださいます。例えば先日、ジェシカ講師の課題で日本のアニメ番組『アイシールド21』を手がけた時のこと。走る主人公が「ハア、ハア」と息を切らしている場面がありました。これをどう表現するのか？ これをどう表現するのか？ いろいろ調べている時にホストマザーが愛犬の

を歩いていると、半分歩いた頃には体が温まってきます。また、こちらでは、日本と違い、食事のボリュームもあるので、渡米前の体型を維持するためにも、徒歩通学は効果的だと思います。



気持ちのいい朝の通りを歩いて通学

★生活費や食事について★

1 カ月の生活費は約 1500 ドル

学費以外の生活費は 1 月 1500 ドルぐらい。そのうち、ホストファミリーへ支払うステイ代は月 800 ドルで朝食と夕食が付いています。通学も徒歩ですし、日常にはそれほどお金を使いません。買い物と言えば、日本では手に入りにくいカリフォルニア発のシューズブランド TOMS の靴を何足も買ってしまっただけくらいでしょうか（笑）

ホームステイ先の食事は、朝食はトースト、ヨーグルト、オレンジジュース、コーヒーなどのコンチネンタルスタイルです。夕食は、肉料理、サラダ、温野菜が基本的なメニューです。週 2、3 回は、中華料理のパンダエクスプレスからテイクアウトしたものを食べたり、ホストマザーお気に入りのアメリカン・レストランに食べに出かけたりします。

昼食はホームステイにはついていませんので、学校帰りにサンドイッチやカリフォルニア・ロールなど（5 ドル～8 ドルほど）を買って帰ったり、時々クラスメートと食事に行ったりします。平均 1 日 8 ドル、月 130 ドルといったところでしょうか。また、日系のスーパーマーケットで買ったスパゲッティの乾麺とパスタソース（明太子やたらこ味）、味噌汁なども、昼ごはん用に常備しています。その他、前日の夕食が外食だった場合は、たいてい食べきれずに残り物を持ち帰るので、翌日の昼食にすることがよくあります。

【休日の過ごし方】

たまには足を延ばして観光地でのんびり

事前課題が少なくないため、休日はたいていの場合、洗濯や自分が使っている部屋やお風呂、トイレなどの掃除をした後、課題のために机に向かいます。けれど、短い留学生活。たまにはロサンゼルスのかいれいな風景を見たいものです。知人にお薦めの場所に連れていってもらったり、ハウスメートと観光ツアーに参加したりして、素敵な思い出ができました。

移動には車が便利で、レンタカーは1日30ドルくらいからで借りられるようです。また、車がない人には観光バスツアーもあります。例えば、サンディエゴとメキシコ・ティファナへの日帰りツアーは184ドルで、自宅からピックアップしてもらえました。

これまで私が訪れたお薦めのスポットを紹介します。

★ハンティントン・ライブラリー&ガーデン★

(The Huntington Library, Art Collections, and Botanical Gardens)



トーランスから車で40分～1時間ほど。ヘンリー・ハンティントンという鉄道王が1919年に建設し所有した邸宅と庭園です。200エーカーもの広大な敷地に図書館、博物館、美術館、日本や中国他さまざまなテーマの庭園があり、一日では全てを回りきれません。またここは、多くの映画のロケ地になったそうで興味深いです。

★テラニア・リゾート (Terranea Resort) ★



トーランスの隣町、高級住宅が立ち並ぶパロス・バルデスの海辺にあるリゾートホテルです。たくさんのハーブやサボテンが美しく手入れされた庭園、目前に広がる太平洋、スペイン風のおしゃれな建物。運が良ければお散歩中にクジラを見ることがもできるそうです。

★クイーンメアリー号 (The Queen Mary) ★



トーランスから車で 30 分弱の町、ロングビーチの港に保存されている世界最大級の豪華客船で、現在はホテルとして利用されています。クラシックで豪華な内装もさることながら、看板から見下ろせるロングビーチの街並みやヨットハーバーの景色は壮観です。